

## Q 市民の健康を支える 覚悟を

おがわ  
小川 尋海 議員



## A 帯状疱疹ワクチンの助成に 向けて準備を進めている

**問** ワクチンは症状軽減による医療費の削減、後遺症や死亡による社会的・経済的損失を考慮すると極めて費用対効果の高い、医療経済学では賢い取組とされている。带状疱疹ワクチンは90%以上の予防効果があり、効果の持続期間も10年間以上続く、非常に有効性の高いワクチンである。接種費用の一部助成の検討は。

**答** 带状疱疹ワクチンは、他自治体でも接種費用の一部助成が行われている。また、坂戸鶴ヶ島医師会からも要望書が提出された。これらの状況を踏まえ、令和6年度予算に計上し、準備を進めている。

**問** 带状疱疹ワクチン以外にもインフルエンザワクチンや男性のHPVワクチンなどの有効性の高いワクチンがある。これら



の接種費用の助成の検討は。

**答** 任意予防接種は、全額自己負担で接種するというのが基本的な考えである。国として定期予防接種になるなど動きがあった際には、すぐに対応できるようにする。

### ◎その他の質問

一 若年層にも利用しやすい行政サービスを

二 人件費のコストカット、結局どうするつもり？

## Q 「歩く」をキーワードにした施策の連携

うちの よしひろ  
内野 嘉広 議員



## A 地域に魅力を感じてもらえる施策を進めていきたい

**問** 市民に自分たちが住んでいるまちに興味を持ってもらうためには。

**答** 市民に向けた情報発信を行い、地域資源を活用したイベントや行事に参加してもらうことが効果的と考える。

**問** 「歩く」きっかけの一つとして、植樹の促進や遊休農地の活用としての花畑化による景観づくりについて。

**答** 健康づくりや文化財をテーマとして市内を巡るなどのウォーキングガイドマップを作成し、歩くことへのきっかけづくりを行っている。そうした中、地域団体による植樹を通じて景観などを守り育てる活動が各所で



「歩く」をきっかけとしたまちづくり

われている。また、遊休農地の活用としての花畑化は、地域の景観づくりにとって有効な取組であると考えている。このような景観づくりは、歩くことへのきっかけにつながるものと考えている。

**問** 身近な地域資源の活用について。

**答** 今あるもの、そして人が関わって作り出していく地域資源を活用することが大切である。また、市民を始め多くの地域活動団体と連携を図りながら地域に魅力を感じてもらえる各種取組や施策を進めていきたい。